

## 5 重点施策及び地域プロジェクト

### 第1 産業振興による丹後地域の活性化

#### 1-1 丹後地域の活性化を牽引する観光振興

##### << 現状と課題 >>

##### (1) 観光

- ・丹後地域への観光入込客数は、平成15年には約630万人でしたが、海外も含めた他の観光地との競争激化の中、近年は減少傾向にあり、年間550万人前後で推移しています。また、夏の海水浴と冬のカニを軸とした二季型観光地として宿泊率も17%前後となっており、一人当たりの観光消費額が伸び悩み、その上昇が求められています。
- ・日本三景「天橋立」や世界ジオパークネットワーク加盟の山陰海岸ジオパークをはじめとする海、山などの美しい自然景観に加え、重要伝統的建造物群保存地区の「伊根浦舟屋群」や「ちりめん街道」の町並み、あるいは、古代丹後王国を伝える史跡や丹後七姫や浦島太郎等のロマン溢れる伝説など多くの魅力ある歴史・文化が存在しています。また、「丹後産コシヒカリ」「間人ガニ」「丹後とり貝」「丹後ぐじ（アカアマダイ）」等に代表される豊かな山海里の幸や地酒、多くの温泉もあり、立ち寄り湯も整備されています。
- ・このような豊富な観光資源がありますが、海の多面的な活用も含め、十分に活用されておらず、観光資源を更に磨き上げ、「丹後地域ならではのブランド」を築き、これらを活用した体験プログラムの開発や広い範囲に点在している観光資源をKTRやバス、観光船等を活用して周遊するシステムを造成し、経済波及効果が大きい滞在交流型の観光地域づくりを推進し、一人当たりの観光消費額を増やしていくことが必要です。
- ・「海の京都観光圏」は、平成26年7月に観光庁から観光圏整備実施計画の認定を受け、近畿圏で唯一の認定地域となりました。今後、2020年（平成32年）東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えて、日本の顔として国内外から選ばれる国際競争力の高い魅力あるブランド観光地域をめざすことが必要です。
- ・KTRでは「くろまつ」等のリニューアル車両の導入、京都舞鶴港では大型クルーズ船に対応したふ頭整備が進められ、陸と海の双方から多くの人ともの流れが増大しており、これらと連動した路線バスの利便向上等の二次交通の充実・強化により更なる観光客の入り込みの増加が期待されています。
- ・また、更なる観光産業振興のために、丹後地域と関西・中京圏を結ぶ動脈となる京都縦貫自動車道の開通とともに、山陰近畿自動車道の与謝天橋立IC～大宮森本IC（仮称）間の早期完成、大宮森本IC（仮称）の先線の事業化、また丹後半島一周・京都の新海遊ルートである国道178号をはじめ、観光地を結ぶアクセス道路等の整備促進が必要です。

##### (2) 農林水産業など「食」関連産業

##### ア 農林業

- ・丹後地域における就業人口に占める第1次産業従事者の割合は、8%と府全体の2%よりも高くなっています。農業は水稻を中心として、砂丘地や国営開発農地（国営農地開発事業により造成された農地）を利用した野菜や果樹等の生産も各地で行われており、特A評価の丹後産コシヒカリ、ブランド京野菜、ナシ、ブドウ、桃、茶等の魅力ある農産物が豊富にあります。

- ・丹後地域の農産物は良質でおいしいとの評価がある一方で、農産物価格の低迷もあり、こうした評価が必ずしも農家所得の向上に反映されていないことや、少量多品目生産であるため、大型店等への安定した出荷が困難な状況であるなど、生産力の強化が課題となっています。
- ・農商工連携による新たな商品開発を更に推進し、高品質でブランド力の高い商品を生み出すとともに、観光との連携により、魅力ある「食」として最大限にPRし、販路拡大や食関連ビジネスの創出につなげていく必要があります。
- ・過疎高齢化が急速に進む中、丹後地域の販売農家数は、ここ10年で約4分の3に減少するなど担い手不足が深刻な状況になっています。一方で、意欲と能力を持つ多くの若者が農業に取り組んでおり、こうした動きを支援し、都市部からの移住等も含め、多様な担い手を確保する取組を進めるとともに、持続的な農業生産を行うため、農地の集積や集落営農組織の法人化等による経営力の強化が求められています。
- ・イノシシ、シカなどの野生鳥獣による農林産物の被害は、依然として大きく、経済的損失に止まらず、耕作意欲の減退による耕作放棄地拡大の要因にもなっています。有害鳥獣の捕獲と併せて集落ぐるみで効果的な被害防止対策を推進するとともに、猪肉・鹿肉を食材として有効利用することが求められています。

## イ 畜産業

- ・丹後地域では、府内の肉用繁殖牛飼養頭数の約60%が飼育され、中丹・南丹地域への和牛子牛の供給地として重要な役割を担うほか、「京たんくろ和牛」や府内最大のジャージー牛飼養牧場がありますが、近年、畜産農家数の減少、飼養頭数の伸び悩み、飼料代の高騰など厳しい状況にあります。後継者、新規就農者の経営支援による増頭、水田や畑作農家との連携による地域内飼料の確保、「京たんくろ和牛」の増頭やジャージー牛等の乳製品販売など、魅力ある「食」として更に発展させていく必要があります。

## ウ 水産業

- ・丹後地域の海では、日本海固有の冷たい水の上を対馬暖流が流れているため、暖水性のブリ、サワラ、マグロ類や、冷水性のズワイガニ、ハタハタ、ニギスなど、多種多様な魚介類が獲れます。また、宮津湾や久美浜湾等の内湾では、ブリ、トリガイ、マガキ、イワガキなどが養殖され、「間人ガニ」「丹後とり貝」「丹後ぐじ」など、新鮮で高品質なブランド水産物も生産されています。
- ・これまでから、資源を増やすため、マダイやヒラメ、アワビ、サザエの種苗を放流するとともに、魚礁や藻場等の魚の住み場づくりも進めてきました。また、資源を持続的に利用するため、休漁日や禁漁区の設定、小型魚等を保護する漁具改良など、資源と環境に優しい漁業にも積極的に取り組んでいます。特に、底びき網によるズワイガニ・アカガレイ漁業の取組は、「持続可能な漁業」として、漁業及び水産物に関する国際的な認証機関であるMSCの認証をアジアで初めて受け、国際的にも認められたものです。
- ・一方、漁業・漁村の担い手の減少や高齢化が進み、水産加工業も衰退傾向にあります。また、産地魚価の低迷と燃油や資材価格の高騰により、漁業の経営環境は厳しさを増しています。こうした社会情勢に対応し、活力ある漁業・漁村を実現できる次世代の漁業経営者を育成・支援する担い手育成体制の整備が喫緊の課題となっています。
- ・丹後地域には、ズワイガニなど観光資源として集客力の高い水産物もあります。また、定置網漁や干物作り等の各種体験、「漁港めし」等の食事提供、漁船を使ったクルージングや遊漁などの「海業」が各地で取り組まれています。今後は、これらの取組をつなげ、観光産業と連携し、旅行商品化を進め、漁村ビジネスとして発展させていくことも必要です。

## エ 食品関連産業

- ・食品関連産業については、漬物、佃煮、豆腐、和菓子、アイスクリーム等の工場・工房や、酒造・醸造、ワイナリーなど、地域の食材を活用した加工・販売施設が地域内に立地しています。

- ・地産地消や観光の取組とも連携し「食」をテーマとした地域振興のためには、「丹後あじわいの郷」等を活用した「食」の拠点の形成、ブランド化の推進、地域外への販売を増やす取組などを進め、食品産業の集積を図ることが課題です。

目標：丹後地域を訪れる観光入込客数、観光客の一人当たり消費額	660万人、6,000円(平成25年：548万人、3,020円)
：名神高速道路から北部への移動にかかる所要時間(大山崎JCT～大宮森本IC(仮称))	90分(平成25年度：115分)
：丹後産コシヒカリの食味ランキング「特A」評価 通算15回獲得(平成25年度：特A)	
：農商工連携取組支援件数	4年間で新たに50件(平成22～25年度：43件)
：ブランド水産物の販売額(丹後とり貝、丹後ぐじ 中丹地域を含む)	1億5,400万円 (平成23～25年度平均：1億200万円)
：新たな中核的農家の育成数	4年間で新たに80人(平成22～25年度：38人育成)
：漁業における新規就業者数(中丹地域を含む)	45人(平成23～25年度平均：39人)

## << 重点施策 >>

### (1) 「海の京都」構想の実現

#### ◎ 地域の魅力を結集した観光ゾーン形成(日本海観光構想の推進)

- 丹後地域への年間観光入込客数600万人の回復と更なる誘客とともに、一人当たりの観光消費額の増大を実現するため、丹後地域の多様な歴史と文化、優れた自然景観や豊富な食など、すばらしい地域資源を「海の京都」の統一したコンセプトのもと、観光資源として磨き上げる(ブラッシュアップ)ことによって、国内外から選ばれる国際競争力の高い魅力ある滞在交流型のブランド観光地域をめざします。

また、兵庫県や鳥取県、福井県との連携による周遊観光の提案など、広域観光を推進します。

#### ア 魅力ある戦略拠点の形成と丹後地域の特色をいかした「海の京都」ブランドの確立

##### (ア) 「海の京都」の戦略拠点の整備促進

- ・市町ごとの戦略拠点整備のマスタープランに基づく景観形成や修景整備等の推進
- ・丹後地域の豊かな自然、歴史、文化、産業等を「海の京都」の統一テーマのもと観光資源として磨き上げる取組の推進
- ・「海の京都」「山陰海岸ジオパーク」「北前船寄港地」等を結ぶ日本海の広域観光ネットワークづくりと情報発信の拠点整備

##### (イ) 四季折々の新鮮な食材PRによる地域ブランドの確立

- ・丹後産コシヒカリ、ブランド京野菜、果樹、ズワイガニ、ブリ、サワラ、ナマコ、アカアマダイ、トリガイ、カキ、アサリなど四季を通じた丹後地域ブランドの確立
- ・丹後地域の食材にこだわったメニューの開発、コンクール・試食会の開催、レストラン等への食材提供や大手商業施設での販促活動などあらゆる機会を使ったPR

##### (ウ) 「丹後地域ならではの」体験メニューの創出

- ・観光客ニーズに対応した各種ツーリズムの開発
- ・漁業体験や農業体験・生活体験メニューの創出

- ・丹後地域の新鮮な魚介類を買って食べられる「観光浜売り市場」や「漁港レストラン」の開設
- ・次世代の丹後地域ファン獲得のための歴史や文化、自然環境等をいかした体験メニューや中・高・大学生等を対象とした教育旅行や合宿の誘致

## イ 周遊システム・二次交通システムの整備促進

### (ア) 鉄道、バスや船等の利便性と魅力の向上

- ・鉄道の利便性と魅力の向上（KTRの計画的な車両整備等への支援）
- ・鉄道とバス等が乗り継ぎしやすい、分かりやすく使いやすいダイヤの改善に向けた支援
- ・多様な二次交通（海上タクシー、ベロタクシー、レンタサイクル等）整備への支援

### (イ) 新たな海路コース等の開設や充実による魅力向上

- ・宮津、伊根、舞鶴等を結ぶ観光航路の開設、遊覧船や高速船整備への支援
- ・天橋立、伊根やジオパークなどすばらしい自然景観を巡るルートの設定
- ・丹後郷土資料館を核とした歴史回廊ルートの設定
- ・「サンセットクルーズ」や「食事と生演奏のナイトクルーズ」など船を活用したルートの設定
- ・KTRの「くろまつ」等を活用した地酒と郷土食を味わうルートの設定

## ウ インバウンド対策の推進

- ・海の京都観光推進協議会を核とした多言語対応、免税店拡大、両替システムやキャッシュカード利用環境の充実、無料公衆無線LAN環境整備、情報アプリ等外国人旅行客の受入体制の整備
- ・2020年（平成32年）東京オリンピック・パラリンピック競技大会を念頭に置いた誘客対策の推進

## エ 観光地域づくりプラットフォーム<sup>けん</sup>の設置と人材育成

- ・「海の京都」エリア全体を牽引できる中核人材（観光地域づくりマネージャー）と連携し、エリア全体の観光をマネジメントするシステムの構築
- ・おもてなしを担う人材向けの講習会の開催による地域のおもてなし力の向上と強化
- ・「海の京都検定（仮称）」の実施をはじめ、「丹後観光口コミ大使語り部の会」や「海の京都」観光ガイドと連携した地域の観光人材の育成

## オ 広域観光プロモーションの実施

- ・海の京都観光推進協議会を核とした「海の京都」の統一的なテーマとコンセプトによる観光プロモーションの戦略的展開
- ・「海の京都博（仮称）」等の展開による年間イベントの開催
- ・「海の京都」のブランド力を高めるためのHP充実やSNS等による情報発信

## ◎ 丹後地域の食の魅力発信と生産力強化（丹後・食の王国構想の推進）

- 丹後地域の魅力ある「食」を安心・安全かつ高品質に提供するとともに、生産力強化や新たな商品開発等に取り組み、更にブランド力を高めていきます。

### ア 丹後地域の強みをいかした製品の増強

#### (ア) 「丹後産コシヒカリ」特A評価の維持

- ・丹後米改良協会を中心に生産者・関係者が協働して、近年顕著化している夏季高温への対策や食味向上の取組等を強化し、食味ランキング「特A」評価を維持

- ・ICTやメールマガジン等を利用した栽培管理情報などのタイムリーな配信
- ・米の食味コンテストの開催
- ・夏季高温に強い栽培技術の普及と良食味新品種導入に向けた開発研究

#### **(イ) ブランド京野菜等の生産力強化**

- ・新規生産者の確保、集落における集団的取組や団地化等の推進による生産体制の強化
- ・生産技術の向上、ハウスや機械・施設の整備による生産力強化
- ・流通形態の多様化に対応した販路拡大、食品製造業や外食産業との連携等への支援

#### **(ウ) 丹後産宇治茶の産地確立**

- ・国営開発農地を中心とした茶産地の確立に向けた優良茶園化への支援
- ・製茶工程管理システムを実践指導できる技術者育成等による製茶工場の運営・経営体制の確立
- ・丹後地域の気候風土に適合した栽培技術と製造技術等の確立

#### **(エ) 「丹後地域ならではの」の農産物の産地育成**

- ・国営開発農地を中心に、短形ごぼうなどの野菜類の新たな特産物開発

#### **(オ) 和牛振興基地をめざす碓高原牧場での生産拡大**

- ・優良和牛繁殖雌牛の導入による遺伝的能力の高い子牛の生産拡大と安定供給
- ・和牛の受精卵（胚）の生産譲渡の拡大や、担い手農家への妊娠した繁殖雌牛の譲渡

#### **(カ) 畜産業の振興**

- ・水田や畑作農家との連携による飼料用米や稲発酵粗飼料の作付拡大の推進
- ・飼料用米の利用や安心・安全な生産方式による「京のこだわり畜産物生産農場」の登録を進め、特徴ある畜産物の利用を拡大

#### **(キ) 基幹漁業（定置網、底びき網）等の振興**

- ・急潮発生や大型クラゲ来遊の予測技術向上による定置網の漁具被害防止
- ・定置網における船上選別装置や小型クラゲ排出装置等の開発による省力化
- ・ズワイガニ等の資源管理の強化と代船建造の促進による底びき網漁業の生産安定化
- ・資源管理・漁業経営安定対策の推進及び省エネ化による漁業経営の安定化
- ・漁業と遊漁の漁場利用協定や新漁業巡視艇等による府海域の秩序維持と資源の持続的利用の推進

#### **(ク) 本府独自のつくり育てる漁業の技術等をいかしたブランド水産物の生産拡大**

- ・久美浜湾等での漁業者によるトリガイ中間育成の実施
- ・宮津湾等での「丹後とり貝」育成漁場の拡大
- ・漁業者と連携したイワガキ養殖種苗の供給体制の強化
- ・ブランド水産物の安心・安全のための貝毒モニタリングの実施
- ・全国トップレベルの品質をめざした「京丹後サワラ」の高品質出荷技術の普及
- ・新たなブランド水産物創出に向けた研究開発

### **イ 丹後地域の特色をいかした新たな商品の開発や食関連ビジネスの創出**

#### **(ア) 新たな商品開発の支援等**

##### **a 農産物を利用した新たな商品開発等への支援**

- ・「食の試作ネット」「きょうと農商工連携応援ファンド」の活用や異業種交流等による地域食材をいかした新商品開発の推進
- ・丹後産茶の自社販売や茶使用商品開発・販売等による6次産業化の支援、お茶まつり、茶摘みツアーの実施等の推進
- ・食品関連事業者等が連携した地域の農林水産物の特性をいかした加工品の開発や商品のブランド化の推進

## **b 水産資源を利用した新たな商品開発等への支援**

- ・水産資源を活用した商工連携（海業）等による新商品開発などの支援（例：サワラ、アカモク、ウニ等）
- ・ニギス等低価格魚の加工等による付加価値向上、利用促進

## **c 丹後ジビエ（猪肉・鹿肉）の商品開発**

- ・有害駆除等で捕獲された猪肉・鹿肉の有効活用の推進
- ・飲食事業者と連携した提供店舗の拡大

## **(イ) 食関連ビジネスの創出**

- ・「きょうと農商工連携応援ファンド」等の活用、きょうと農業ビジネスプラットフォームや丹後地域アグリネットなど関係機関や民間との連携による事業支援、水産ビジネスプランの推進等

## **(ウ) 「丹後食の王国センター」における 10 次産業化の推進**

- ・「丹後あじわいの郷」を 10 次産業化の拠点「丹後食の王国センター」として、地域の食材をいかした加工品等の開発・販売の拠点づくりを推進するとともに、栽培から調理、サービス、加工・販売等までの実践的な研修や食のマイスター制度の活用等による地域の食を支える人材育成の展開

## **ウ 観光との連携、販路開拓等**

### **(ア) 「丹後あじわいの郷」を拠点とした丹後地域の「食」の魅力発信**

- ・地域食材にこだわった食事や加工品の提供
- ・農園やホテルを活用した「週末農業」等の農業体験の充実
- ・周辺体験施設等と連携した地域の「食」観光インフォメーション機能の充実

### **(イ) 地産地消の推進、地元製品の P R**

- ・地元産野菜について、学び（体験）、食べ、買うことができる京野菜ブランドの情報発信
- ・「きょうと食いく先生」等による小・中学校等への食育出前授業の実施
- ・コシヒカリをはじめとする地元産の米・野菜・果樹、水産物、畜産物を学校・福祉施設・病院等へ供給する取組の推進

### **(ウ) 丹後の魅力ある地酒や郷土料理等の発信**

- ・「地酒」など丹後の「たからもの」をテーマとする観光ツアーやイベント、K T R 等と連携した P R の実施
- ・飲食事業者と連携した丹後あじわい食（丹後ばらずし等）の発掘・発信
- ・地元食材を利用した「長寿食」等の普及

### **(エ) 「丹後地域ならではの」の「食」等が味わえる施設の確保**

#### **a 京都縦貫自動車道等をいかした「売れる」販売施設整備の支援**

- ・京都縦貫自動車道等を利用する多くの観光客等が「丹後地域ならではの」のものを買える、食べられる施設整備の支援

#### **b 朝市等の直売所の支援**

- ・観光と連携した直売所の P R
- ・直売所間のネットワークづくり
- ・直売所運営ノウハウを習得するための講習会の開催

### **(オ) インターネット、情報誌を活用した丹後地域を代表する農産物・水産物の魅力の戦略的 P R**

- ・「丹後産コシヒカリ」などの丹後地域の魅力ある食材やレシピと「海の京都」観光情報等とのインターネットや情報誌等による連携 P R 等地域ブランディングの推進
- ・漁業、漁村の様々な資源の効率的な活用（海業）による都市と漁村の交流促進、府民にゆとりと

- うるおいを提供することによる「丹後の海ファン」獲得に伴う丹後水産物の消費拡大
- ・MS C認証水産物（アカガレイ）のPR

## （２）「食」を支える基盤づくり

- 丹後の豊富で魅力ある「食」を守り育てていくため、担い手の確保育成や経営力向上等を支援するとともに、農地や漁場等生産基盤の保全、整備を図ります。

### ア 担い手の確保・育成等

#### （ア）「丹後農業実践型学舎」「海の民学舎」等による新規就業支援、後継者の確保

- ・「丹後農業実践型学舎」での国営農地のスケールメリットをいかした次世代の農業担い手の育成
- ・「海の民学舎」での漁業の法令や制度の座学研修と、漁労技術、養殖技術等の実践研修による新規就業者の育成
- ・「農の担い手づくりサポートセンター」等と連携した農林水産技術研修の実施及び就労の機会や場の提供
- ・新規就農講座の実施による栽培技術や病害虫管理などの基礎知識の習得等
- ・担い手養成実践農場及び漁場を活用した就業支援
- ・漁協組合員資格の取得までのマニュアル作成及び資格取得の指導

#### （イ）京力農場※づくりの推進

- ・地域の担い手や農地確保のための京力農場プランの作成支援
- ・農地利用の集積・集約化を行うための農地中間管理事業の推進

#### ※ 京力農場

「地域農業の人と農地の課題を解決するため、住民の話し合いを通して集落型農業法人の設立や担い手への農地集積、販路を見据えた作物栽培等を図り、力強い農業経営の転換を推進すること（協力により、強力になる「京力」農場）」をいいます。

#### （ウ）経営力向上のための支援

- ・農業ビジネスセンター京都等と連携した専門家派遣等によるビジネスプラン策定やマーケティングサポートの実施及び施設・設備整備への支援
- ・集落型農業法人の設立及び経営改善や地域の人的・面的特性に応じた経営体育成の支援
- ・酒米・加工用米・飼料米の生産拡大による水田フル活用への支援
- ・「海の民学舎」での模擬経営計画の策定講習等による漁業経営者の企業的経営意識の向上と経営力アップ
- ・地元資源を活用した漁村ビジネス（海業）を起業化、総合プロデュースできる人材の育成
- ・漁村ビジネス研修の受講者等の起業支援制度の創設とサポートチーム及び支援員による伴走支援

### イ 生産基盤の整備

#### （ア）農業の生産基盤の整備

- ・担い手への農地集積に向けた大区画ほ場の整備推進
- ・日本型直接支払制度等を活用した農地及び水路・農道などの施設を保全・更新整備、維持管理する活動の展開

#### （イ）水産業の生産基盤の整備

- ・環境保全（窒素・リンの吸収・固定や二酸化炭素の吸収）や、アワビ、サザエ等の磯根資源や稚

- 魚の育成に重要な役割を果たす藻場の造成・改良・維持保全
- ・漁業経営の安定、漁場の利用調整等を目的とした漁場の造成・改良
- ・水産物の安心・安全を図り、付加価値を高めるための荷さばき施設や水産加工施設等の改修・整備促進、既存施設の長寿命化への取組強化
- ・京都府1漁協体制に適合した漁業施設の統合整理

#### ウ 有害鳥獣被害対策の推進

- ・市町や住民との連携・協働による地域実態に応じた効率的・効果的な被害防除対策と有害鳥獣捕獲体制整備の推進
- ・恒久防護柵等の防除施設の整備など集落ぐるみでの自主防除体制整備の推進
- ・狩猟免許取得の啓発による捕獲班員の確保
- ・捕獲の推進による有害鳥獣の頭数削減
- ・ニホンザルの被害を低減するための個体数管理への支援

#### エ 環境保全・資源循環型農業の推進

- ・エコファーマー認定の推進
- ・与謝野町での「京の豆っこ」の取組をはじめとする地域資源循環型農業の推進
- ・市町のバイオマス利活用の取組への支援
- ・地域内での水田や畜産農家との連携による飼料作物生産拡大への支援
- ・環境にやさしい農業の実践者と消費者との連携支援、消費者の理解促進

### (3) 観光を支える基盤づくり

- 丹後地域の観光産業を更に発展させるため、地域の内外を結ぶアクセス道路の整備を推進します。

#### ア 山陰近畿自動車道 与謝天橋立 I C～大宮森本 I C（仮称）間の早期完成（平成 28 年度目標）

- ・関西・中京圏からの時間距離を短縮、観光客が訪れやすい交通アクセスの整備

#### イ 丹後半島一周・京都の新海遊ルート of 基盤整備

- ・丹後半島に点在する名所や景観地の大型バスによる周遊・利便性を向上させる観光道路の整備
- ・国道 178 号の整備（蒲入バイパス、上野平バイパス、里波見拡幅等）及び整備検討（袖志拡幅等）

#### ウ 広域観光アクセス等の道路整備

- ・「海の京都」戦略拠点等を結ぶ観光幹線道路の整備
- ・国道 178 号、312 号（野中バイパス）、482 号（丹後弥栄道路）、宮津養父線、網野峰山線、網野岩滝線、久美浜湊宮浦明線、丹後縦貫林道（リフレッシュ事業）等の整備（一部再掲）



## 1-2 ものづくり産業等地域産業の振興

### << 現状と課題 >>

#### (1) 中小企業等地域産業

- ・丹後地域は、約 290 年の伝統を誇る「丹後ちりめん」の産地として知られ、織物業が基幹産業の一つとして地域経済を支えてきたところであり、丹後織物産地の生糸消費量は、全国の約 3 割を占めるなど国内の絹織物産地としては、全国一の規模で、特に白生地織物の生産高は国内生産量の約 6 割を占めています。
- ・また、織物産地の発達を背景に育った機械金属業は、大手企業からその下請企業に裾野が広がり、着実に地域を支える産業として発展してきました。
- ・商業関係では、経済センサスによると、丹後地域の小売業の事業所数は、平成 24 年調査では 1,160 事業所となっており、平成 21 年から約 400 事業所が減少しています。
- ・消費者の生活スタイルやニーズの多様化等に対応する幹線道路沿いの店舗の増加やコンビニエンスストアの進出、後継者不足等により、自主的な取組が困難な商店街も存在するなど厳しい状況が続いています。

#### (2) 織物業

- ・消費者の生活スタイルの多様化の中、和装需要の低迷等により、生産量が減少傾向にあり、平成 25 年の丹後ちりめんの生産数量は 43 万反（ピーク時：920 万反（昭和 48 年））となるなど厳しい経営環境が続いています。
- ・従事者の高齢化、後継者不足、生産設備の老朽化等生産基盤の課題への対応が求められている中、生地等の加工素材の生産にとどまらず、消費者向けの新商品開発や大都市圏・海外への発信に取り組む地域のリーダー的企業の出現など、新たな取組も見られます。

#### (3) 機械金属業

- ・京都府では平成 20 年 10 月に、中小企業のための総合的な拠点となる「丹後・知恵のものづくりパーク」を開設し、府北部のものづくり人材の育成や新規産業の創出支援を行っています。
- ・下請け加工が大半を占める丹後の中小機械金属企業は、グローバル化による競争激化、原材料費や光熱費の高騰により、厳しい経営を強いられています。
- ・高付加価値の商品づくりや企業競争力強化のための高度な加工技術をもった技術者の確保、高度加工に対応できる新規設備の導入等が求められています。
- ・一方で、様々なニーズに対応し、企画から設計、製造まで行える企業の出現や企業間の連携による新たな製品づくりの取組など、従来にはなかった動きも多くなっています。

#### (4) 産業振興の基盤となる道路整備の推進

- ・産業振興のために、丹後地域と関西・中京圏を結ぶ動脈となる京都縦貫自動車道の開通に続き、山陰近畿自動車道の与謝天橋立 I C～大宮森本 I C（仮称）間の早期完成をはじめ、大宮森本 I C（仮称）の先線の早期事業化が必要です。

#### (5) 地域産業を担う人づくり・就業支援体制の強化

- ・地域に定着する若者が著しく減少しており、これからの地域産業を担う人材確保が困難な状況にあります。

- ・丹後地域に戻りたい、住みたいと考える若者等に対して、積極的に地域情報等を発信することにより、U・Iターン等の促進に結び付けるしくみづくりが求められています。

目標：中小企業による経営革新等の取組支援件数 4年間で新たに60件（平成22～25年度：49件）  
 ：経営問題等に係るサポート件数 200件（平成25年度：185件）  
 ：「丹後・知恵のものづくりパーク」における技術相談や人材育成を通じた企業支援件数  
 7,000件（平成25年度：6,428件）  
 ：丹後地域へのU・Iターン就業者数 120人（平成25年度：103人）

## << 重点施策 >>

### （１）エコノミック・ガーデニング方式等による丹後の中小企業成長・発展支援

- 丹後地域の経済を支えてきた中小企業の経営安定、成長・発展を支援し、地域経済の活性化を図ります。

#### ア エコノミック・ガーデニング※の推進

- ・中小企業応援隊や技術応援隊等が連携した中小企業の成長段階に応じたきめ細かなコンサルティングの実施、経営改善等に取り組む企業に対する設備投資や販路開拓等への支援
- ・中小企業応援条例に基づく「元気印認定企業」や「知恵の経営の認証」による新事業展開や新たな需要の開拓等の支援

#### ※ エコノミック・ガーデニング

全ての中小企業を対象に、中小企業応援隊が訪問活動を行い、企業の課題を把握する中で、経営基盤強化やセーフティネットづくりにより中小企業を支えるとともに、それぞれの中小企業の状態に応じて、下支えから改善、成長支援までを一貫して行う中小企業支援策をいいます。

#### イ 京都の特色をいかした産業づくり

- ・京都ならではの感性と技術を現代の生活にいかした「Made in Kyoto 製品」（「クール・京都」製品）の世界に向けての発信への支援による「丹後ブランド」の確立
- ・ものづくりの工房・工場等の消費者に対するPR、企業の意識改革と経営力の向上を図る「丹後ええもん工房」づくりの支援

#### ウ ものづくり産業のPR支援

- ・丹後地域はものづくり産業（織物業、機械金属業）の集積地であることを地域の魅力として、「海の京都」の取組と連携し発信

### （２）「丹後・知恵のものづくりパーク」の技術支援・人材育成の拠点化

- 開設後6年が経過した「丹後・知恵のものづくりパーク」において、これまでの実績や経験の蓄積、様々な設備、ネットワーク等を最大限に活用した技術支援を行うとともに、企業ニーズに応える「オーダーメイド型研修」の実施により丹後地域の地場産業を担う人材を育成します。

- ・経営者に対する新しい時代に適応した経営研修や交流会の開催

- ・将来の担い手確保のための高校等教育機関と連携した取組の実施
- ・技術相談や機器貸付、依頼試験に関するパーク内の設備・装置の活用や他機関との連携
- ・後継者の育成や在職者のスキルアップに向けたコンピュータを活用した三次元CAD入門講座や中堅管理者の経営感覚（コスト意識）向上に関する育成研修、機械加工の基礎技術習得研修、織物業未経験者基礎研修など、業界団体や企業のニーズに即応した実践的なプログラムの企画・実施による人材育成の推進

### （３）丹後ちりめん等織物業や機械金属業の振興と「新丹後ブランド」化

- 高い技術力をいかした新商品の開発及び販路開拓に取り組み、織物業及び機械金属業の振興と発展を図ります。

#### ア 伝統・地域産業の生産基盤の維持・人材の確保

- ・織物業者、農林水産業者や観光事業者等のニーズを発掘するための意見交換の場の設定等「丹後試作隊」による新たな製品づくりへの支援
- ・織機など事業継続に不可欠な設備の更新等への支援による地場産業としての生産基盤及び織手等の人材の確保
- ・「ゆかた・きものを楽しむ日・月間」や着物着用者を優遇する観光イベントの実施など「きもの着用」の機会を広げる事業の実施

#### イ 地域の技術や特性をいかした世界に通じる新商品開発・販路開拓

- ・高付加価値商品を創出できる織物産地をめざした、専門家や流通業者の協力の下での国内外での「丹後ブランド」の確立と販路拡大への支援
- ・生活用品や産業資材など多様な分野への用途拡大をめざした企業、専門家（デザイナー等）、府の連携による新商品の開発
- ・丹後地域のものづくり企業間連携の促進によるCFRP（炭素繊維強化プラスチック）など新分野への進出支援や、「絹セリシン・フィブロイン」を活用した新商品の開発支援

#### ウ 多品種少量生産等多様な製品開発にも対応できる「オンリーワン企業」の育成

- ・人材育成研修の実施や産学公連携等による企画から設計、製造まで行える高い技術力を備えた「オンリーワン企業」の育成、支援
- ・企業競争力強化のための新分野進出や多角的な技術支援による地域ブランディングの推進

### （４）商店街活性化支援

- 消費者の生活スタイルの多様化等により厳しい状況が続いている小売業や商店街を再生し、地域のにぎわいを取り戻す取組を進めます。

#### ア 商店街の「にぎわいづくり」支援

- ・100円商店街や軽トラ市、プレミアム商品券の発行等地域の特色をいかし創意工夫を凝らした特徴ある商店街づくりへの支援
- ・外部人材の活用、ソーシャルビジネス等との連携による空き店舗を活用したにぎわいづくりへの支援

## イ 商店街の地域コミュニティ機能強化への支援

- ・子育て支援、地域住民交流の場や健康拠点づくり、買い物サポート事業など、商店街の機能強化への支援

## ウ 中心市街地活性化の取組を支援

- ・市町がまちづくり計画を推進する中で取り組むまちなかにぎわいづくりと商業活性化に関する積極的、戦略的事業への支援
- ・地域の観光資源を有効活用しつつ、観光集客でのにぎわいづくりをめざすまちなか観光の推進等

## (5) 地域産業を担う人づくり・就業支援・若者の定着・定住対策の強化

- U・Iターンなどにより丹後地域に就職（正規雇用）、定着・定住する若者を増やし、地域の経済、産業の活性化を図ります。

### ア 地域産業を担う人づくり

- ・ハローワーク、北京都ジョブパーク等の就業支援機関、人材育成機関、産業支援機関と連携して、企業の人材確保支援と企業が求める人材育成を一体的に実施
- ・後継者確保に悩む事業者と丹後での起業希望者とのマッチング等による事業継承人材の確保

### イ U・Iターンの支援

- ・北京都ジョブパークとU・Iターンセンターとの連携による地元企業の情報収集、U・Iターン希望者の地元企業への情報発信強化
- ・北部企業とU・Iターン希望者をマッチングするICTを活用した情報提供
- ・地元企業情報の京阪神の大学等への提供による丹後地域出身大学生等のUターンの促進
- ・U・Iターン希望者に対する丹後地域での就業のノウハウや暮らしに関する情報の発信
- ・丹後地域にIターンで就業した若者を対象にした交流会の開催

### ウ 企業誘致等による働く場の確保

- ・市町と連携した企業誘致等の推進

## (6) 産業振興の基盤となる道路整備の推進

- 丹後地域の産業振興と経済の活性化を図るため、高速道路網の整備を推進します。

### ア 山陰近畿自動車道の延伸

- ・大宮森本IC（仮称）の先線の国による早期事業化

### イ 山陰近畿自動車道の事業推進

- ・与謝天橋立IC～大宮森本IC（仮称）間の早期完成（平成28年度目標）（再掲）